

2021年 1月 27日

各 位

会 社 名 : 株式会社ワールドホールディングス  
 代 表 者 名 : 代表取締役会長兼社長 伊井田 栄吉  
 (コード番号: 2429 東証第一部)  
 問 合 せ 先 : 経営管理本部 広報IR室長 菅野 利彦  
 (電話: 03-3433-6005)

## 女性(ママ)の働く意識調査結果発表 2020

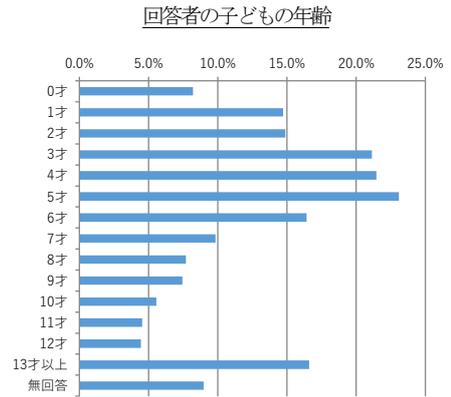
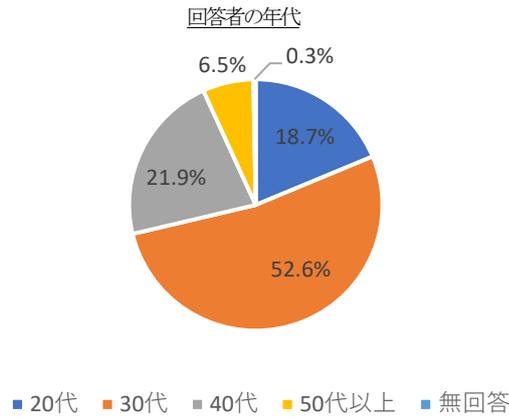
- ・女性(ママ)が不安に思う「子育てへの理解」- 企業側にもある
- ・雇用形態に関して、未就業者の「希望」と就業者の「実態」が顕著に表出
- ・女性(ママ)の「はたらく」に家族の協力は不可欠であることが数値で明らかに
- ・コロナ禍により女性(ママ)の就職・転職市場が多様化・活性化か

当社連結会社である株式会社ワールドネクスト(本社: 福島県郡山市、代表取締役: 本多信二、以下「ワールドネクスト」)において、運営委託を受けている「おしごと百貨店」(民間型ハローワーク)と、委託元である一般社団法人Stand for mothers(本部: 福島県郡山市、代表理事: 田中豪)が運営している「暮らしづくりビレッジ」では、毎年行っている、福島県内に居住する1,000名の女性(ママ)を対象とした、働くことに対する意識調査(プロジェクト名: 1000 ママプロジェクト)を共同で実施し、調査結果がまとまりましたので報告いたします。また今年度は、郡山市内を中心とした企業・団体の方にもアンケートにご協力頂き「雇う側」「雇われる側」の意識・認識の違いについても調査いたしました。

### 《調査概要》

1. 調査プロジェクト名: ふくしま1000mama PROJECT Vol.4  
 /ふくしま100企業PROJECT-ふくしま企業雇用動態調査-
2. 調査目的: ①女性(ママ)の働く志向を調査し、広く周知することによって、志向に合った仕事を創出するとともに、働く意欲のある女性に対する意識改革によって就業場所を広げ、ミスマッチを解消し活躍の場を創出するため  
 ②企業の雇用情勢を知り、求職者側との「ミスマッチ」の原因を調査するため  
 ③企業の雇用動態を知り、各企業の人材確保についての提言を図るため
3. 調査方法: 「おしごと百貨店」と郡山暮らしづくりビレッジが共同で当該施設利用者及び主催するイベント等に参加した参加者及び関連団体等の利用者による直接記載形式にて実施
4. 調査対象: 0歳児以上の子供を持つ主に20代~50代の女性  
 /郡山市内を中心とした企業経営者・人事担当者
5. 回収数 : 1,167名
6. 実施期間: 2020年2月1日~11月30日
7. プロジェクト推進団体: 株式会社ワールドネクスト/一般社団法人Stand for mothers
8. 特別協力: 郡山商工会議所
9. 協力: 発達障害児凹凸発達児子育てサポートLion/すかがわ子育てネットワーク tunagu (つなぐ)  
 /白河市/こおりやま子ども若者ネット 等

基本情報 n=1,167

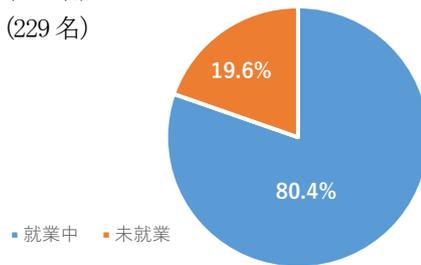


《調査結果》

1. 女性(ママ)の96%以上が働く意思を持っている

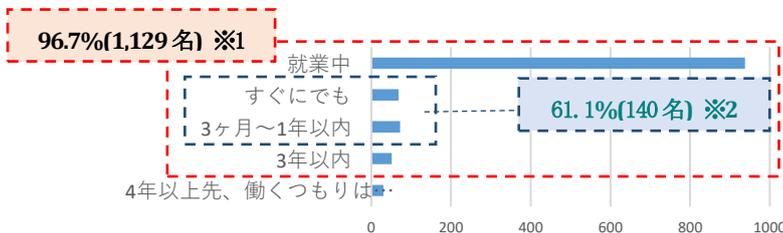
Q. 現在、お仕事をしていますか？ (有効回答1,167名)

- ・就業中 80.4% (938名)
- ・未就業 19.6% (229名)

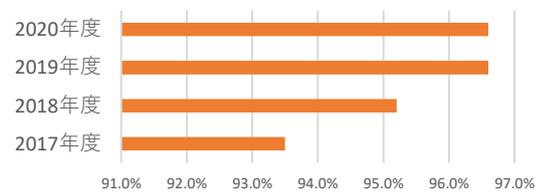


Q. 今後、働くつもりはありますか？ (※上記未就業者対象)

- ・すぐにも 29.7% (68名)
- ・3ヶ月～1年以内 31.4% (72名)
- ・3年以内 22.3% (51名)
- ・4年以上先、もしくは働くつもりはない 13.1% (30名) ※無回答3.5% (8名)



調査開始から4年間の就業意思の変遷 (就業希望)

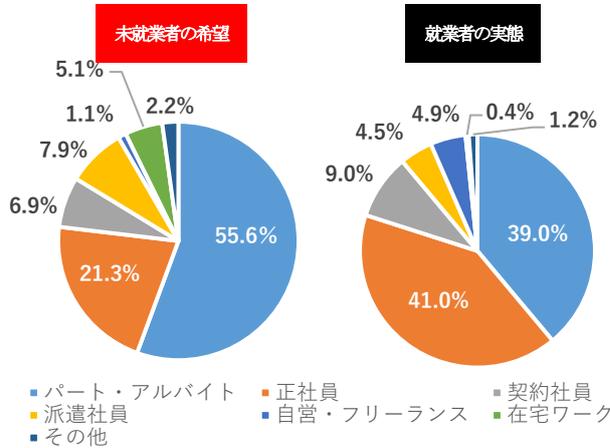


現在就業中の方も含めると96.7% (※1) の女性 (ママ) が就業の意思があり、かつ今後働く意思のある女性 (ママ) の60.1% (※2) の方が1年以内での就業を希望している。  
さらに過去4年とも女性 (ママ) の就業意思は100%に近い比率で推移している。

## 2-1. 女性（ママ）の働きにあたっての様々な条件について希望と実態について

※以下では「希望」＝未就業者の希望するものと「実態」＝就業者の現状をそれぞれ比較

雇用形態の希望と実態



過去4年の未就業者の希望する雇用形態の変遷

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
パート・アルバイト	62.2%	60.0%	64.0%	55.6%
正社員	27.4%	17.2%	16.4%	21.3%
契約社員	2.4%	4.0%	3.1%	6.9%
派遣社員	2.7%	6.7%	6.8%	7.9%
自営・フリーランス	項目なし	5.0%	1.7%	1.1%
在宅ワーク	項目なし	6.3%	7.2%	5.1%
その他	5.2%	0.8%	0.7%	2.2%

未就業者がパート・アルバイトを多く希望しているのに対し、就業者で一番多かったのは正社員だった。また、4年間のランキングでは、未就業者の希望する雇用形態で初めて「派遣社員」が他に1ポイント以上の差をつけてTOP3以内に入った。（上図・赤網掛け部）

契約社員を希望する方も昨年比で2倍以上になり、全体的にある程度長時間での就業を希望する方が増えたといえる。（上図・青網掛け部）

### 職種希望と実態

過去4年の未就業者の希望する職種の変遷

未就業	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
医療	項目なし	7.9%	7.2%	6.7%
事務系	33.7%	32.4%	31.9%	24.3%
営業・外交員	6.9%	1.3%	1.7%	2.0%
調理	項目なし	4.4%	5.0%	5.6%
接客・サービス系	25.7%	26.3%	26.9%	24.3%
介護・福祉系	5.4%	6.9%	5.7%	7.5%
農林水産業系	0.6%	0.8%	0.9%	1.7%
製造・生産系	4.3%	9.6%	12.4%	20.7%
建設・建築系	0.0%	0.5%	0.2%	2.0%
運搬・清掃・包装・倉庫系	4.3%	2.0%	1.8%	2.0%
上記以外の専門職	20.0%	7.9%	6.5%	3.4%

過去3年の就業者の勤務する職種の変遷

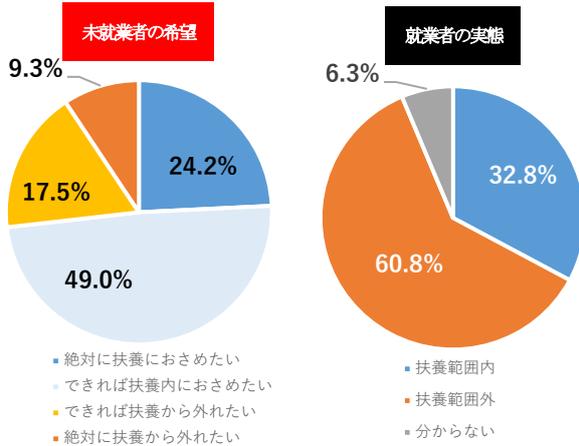
就業中	2018年度	2019年度	2020年度
医療	11.9%	11.1%	7.6%
事務系	19.6%	25.2%	19.7%
営業・外交員	11.6%	1.9%	3.9%
調理	1.5%	2.7%	1.6%
接客・サービス系	19.5%	22.4%	21.1%
介護・福祉系	7.9%	8.0%	15.1%
農林水産業系	1.6%	1.0%	1.9%
製造・生産系	8.5%	9.1%	23.6%
建設・建築系	0.9%	1.2%	0.1%
運搬・清掃・包装・倉庫系	1.9%	1.2%	2.0%
上記以外の専門職	15.5%	16.3%	3.4%

未就業者の希望する職種はTOP3も4年間でほとんど変化が無かった（左図）。

就業者の回答時の職種のTOP3も2018、2019年度と変化が無かったが今年度は初めて「製造系」がランクイン、かつ1位となった。

このことから、職種に関しては未就業者の希望と就業者の実態の乖離おぼろげな結果となった。

扶養の範囲内で働くことについての希望と実態



過去4年の未就業者の扶養に対する考えの変遷

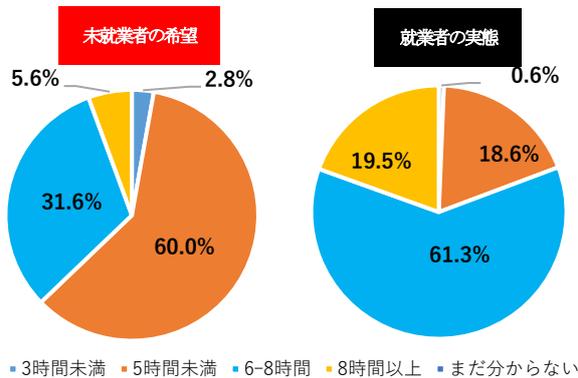
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
絶対におさめたい	52.8%	25.5%	23.0%	24.2%
できれば扶養内におさめたい	項目なし	49.2%	56.2%	49.0%
できれば扶養から外れたい	24.1%	18.6%	13.7%	17.5%
絶対におさめたい	23.2%	13.1%	7.0%	9.3%

未就業者が「扶養内に収めたい」が約70%に対し、就業者の約60%は扶養から外れていることが分かった。また、未就業者で扶養から外れたい人の割合が昨年対比で約6%増加している。

## 2-2. 女性（ママ）の働くにあたっての様々な条件について希望と実態の差について

※以下では「希望」＝未就業者の希望するものと「実態」＝就業者の現状をそれぞれ比較

働く時間の希望と実態



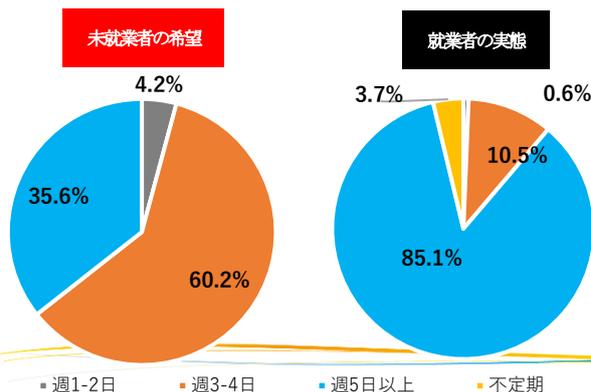
未就業者の過去4年の変遷

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
3時間未満	7.0%	6.2%	5.8%	2.8%
5時間未満	59.1%	64.4%	66.7%	60.0%
6-8時間	0.0%	27.4%	25.5%	31.6%
8時間以上	21.0%	1.9%	2.1%	5.6%
まだ分からない	16.3%	0.0%	0.0%	0.0%

未就業者の多くが「5時間未満」を希望しているのに対し、就業者は「6-8時間」働いている方が多いことが分かった。

また、未就業者で6時間以上を希望する方は昨年比で約10%増加した。就業者の勤務時間についても「8時間以上」が減少、「6-8時間」が増加し、「6-8時間」に収束する傾向がみられた。

働く日数の希望と実態



過去4年の未就業者の希望する働く日数の変遷

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
週1-2日	11.2%	5.7%	7.3%	4.2%
週3-4日	59.7%	69.2%	67.0%	60.2%
週5日以上	27.0%	25.1%	25.8%	35.6%
不定期	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%

早期就業を希望している未就業者の中で「週5日以上働きたい」を選択した人の割合

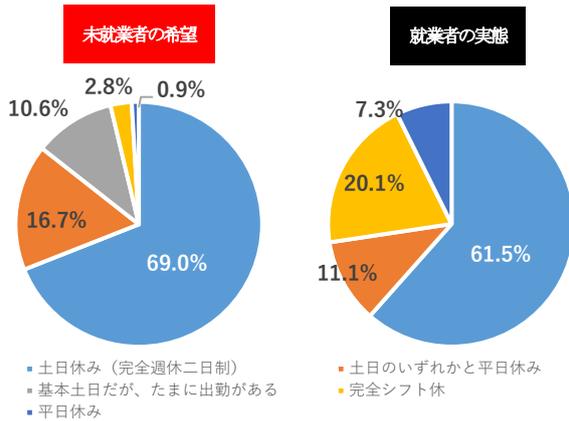
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	6.3%	12.9%	15.5%	22.1%

未就業者が「週3-4日」を希望していることが多いことに対し、就業者の約85%が「週5日以上」働いていることが分かった。

未就業者の中で「週5日以上」の勤務を希望している値が昨年比で約10%増加している。

また、未就業者のうち「すぐにでも働きたい」「3ヶ月以内に働きたい」（早期就業を希望している）方の中で、「週5日以上」働きたいを選択した方はこの4年で最も多く、昨年比で7ポイント増加。全体の2割を超えた。

休日の希望と実態



過去4年の就業者の休日の実態の変遷

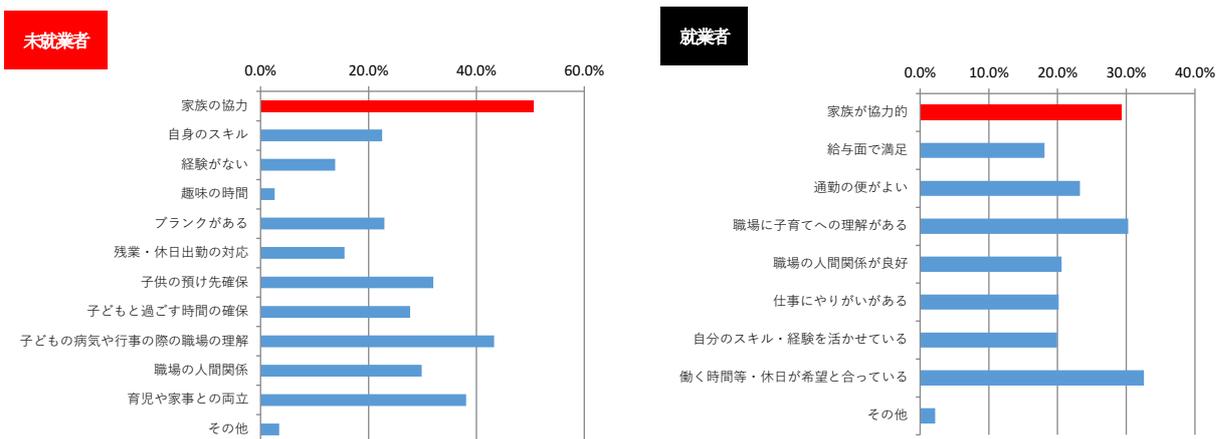
	2018年度	2019年度	2020年度
①土日休み（完全週休二日制）	31.8%	37.5%	61.5%
②土日のいずれかと平日休み	15.4%	17.2%	11.1%
③基本土日だが、たまに出勤がある	28.5%	21.9%	①に統合
④完全シフト休	20.7%	21.6%	20.1%
⑤上記以外の休日			7.3%
⑥平日休み	3.5%	1.7%	⑤に統合

未就業者の約70%が「土日祝休み」を希望している事に対し、就業者の6割は「土日祝休み」で勤務できていることが分かった。

一方で、約3割の女性(ママ)が土日のいずれかの出勤や完全シフト休で勤務していることも見えてきた。

※2017年度は質問項目自体が無かったため、3年間の推移を掲載しています。

未就業者のクリアできれば働ける課題と就業者の仕事が続けられている理由



就業者が今の仕事を続けている理由の3位に「家族の協力」があることに対し、未就業者の「クリアできれば働けること」の1位も「家族の協力」であった。

※「今の仕事を続けられている理由」は2018年度、2019年度の調査項目のため、2年度分の平均値を算出しています。



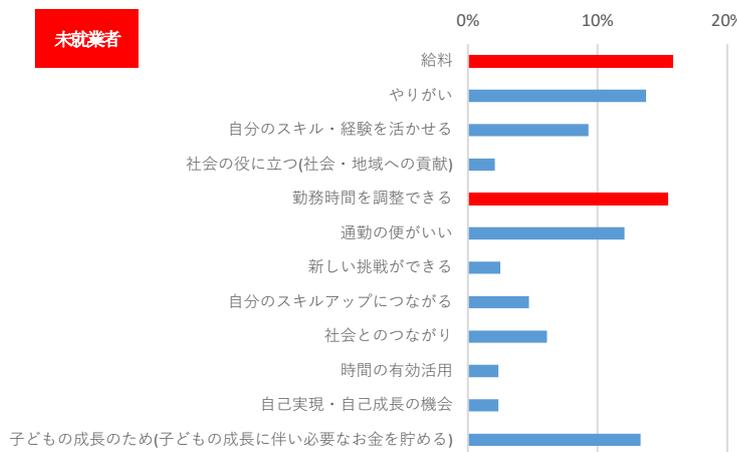
・郡山の企業は企業規模に関係なく、他の採用ターゲットよりも女性の採用に力を入れていることが分かった。

・女性の採用について、5年前と比較し「大幅に増進」と回答した企業、または5年後の予測として「大幅に上層」と回答した企業がいずれも全国平均を上回った一方、今後の予測としては全国平均(全国的には女性の採用に取り組んで行く企業が多い)に比べ、「大幅に上昇」「やや上昇」の合計では全国平均を大きく下回る数値となった。また、これまで同様に女性の採用に力を入れていく企業が多いことも分かった。

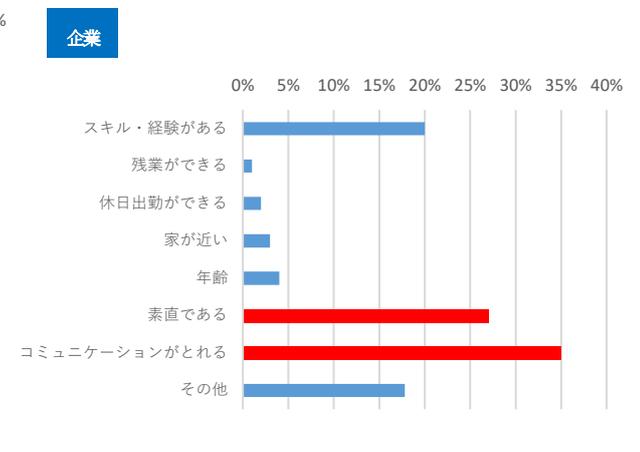
■全国調査について：労働政策研究・研修機構（JILPT）による『多様な働き方の進展と人材マネジメントのあり方に関する調査（企業調査・労働者調査）調査シリーズNO.184』（厚生労働省労働政策担当参事官室の要請に基づき実施された調査）の調査結果を参照しています。

#### 4. 女性（ママ）と企業のアンケートを比較すると双方の考えの違いが明らかに

仕事を選ぶ際に重視するポイント

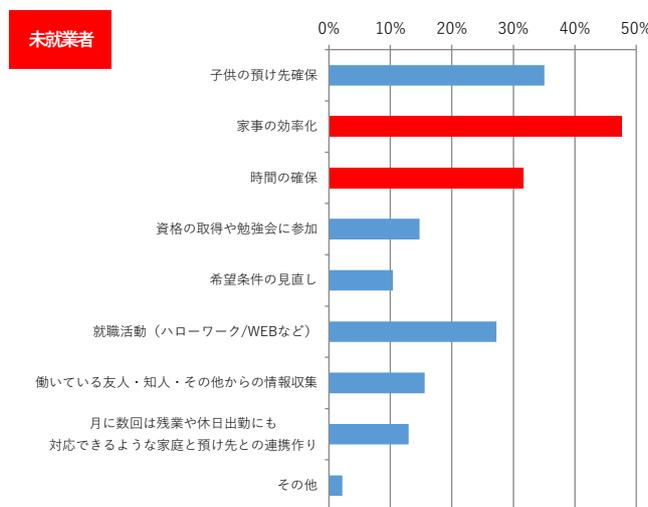


女性（ママ）を採用するとしたら重要視するポイント

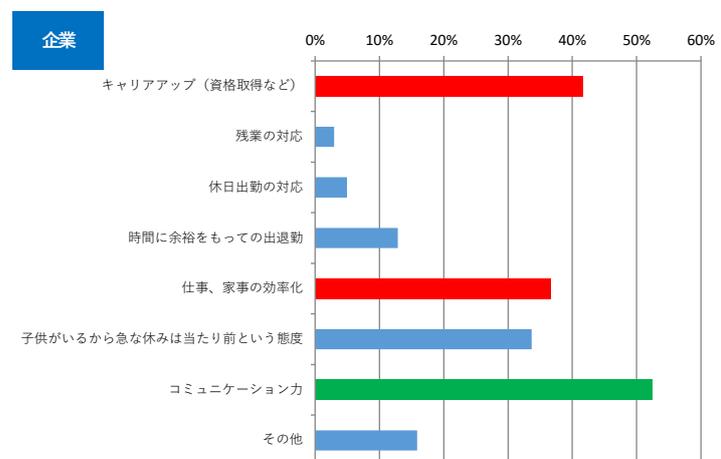


女性（ママ）側は「給与」「勤務時間が調整できる」など、勤務先の状況・環境要因（非人的要因）を重視していることに対し、企業側は「コミュニケーション」「素直である事」など、従業員のパーソナルな要素（人的要因）を重視していることが分かった。

女性（ママ）が努力できるポイント



女性（ママ）を採用したら頑張ってもらいたいポイント



採用・就業後に相互に求めるものについては、女性(ママ)側が「子どもの預け先確保」を除くと「家事の効率化」「時間の確保」など自身で調整・改善できること(人的要因)を挙げていることに対し、企業側も「スキル」「仕事・家事の効率化」という従業員自身で調整・改善可能なものを挙げていることが分かった。そして、この質問でも「コミュニケーション力」を多くの企業が望んでいると回答した。就業後における従業員として努めるべき方向性は企業の希望と一致していると同時に、職場内でのコミュニケーションが重要だと言える。

5. 【総括】

- ・女性(ママ)の「はたらきたい」思いを叶えるには家族の協力が不可欠である。
- ・女性(ママ)が不安に思っている「子育てへの理解があるか」に対しては、企業側にも「理解がある」。
- ・企業側と女性(ママ)求職者側の意識の違いが最も顕著に表出したのは「就業後に努力すべきポイント」。女性(ママ)側は「理解してもらえるか」を「条件」とは捉えず、「正直なコミュニケーション」を通じて、職場内で「自身の家庭の子育て状況」を理解してもらう努力が必要である。
- ・企業は女性(ママ)のニーズを把握した上で双方が無理なく続けられる勤務体系を整備することが重要である。

● コロナ禍において従来就業者だった女性(ママ)が就職・転職市場に放出されている可能性が示唆

過去4年の未就業者の希望する雇用形態の変遷

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
パート・アルバイト	62.2%	60.0%	64.0%	55.6%	「パート」「アルバイト」希望が約10%減少
正社員	27.4%	17.2%	16.4%	21.3%	「正社員」希望が約5%増加、全体の2割超に
契約社員	2.4%	4.0%	3.1%	6.9%	「契約社員」「派遣社員」希望の合計値も8%増加、全体の約15%に
派遣社員	2.7%	6.7%	6.8%	7.9%	
自営・フリーランス	項目なし	5.0%	1.7%	1.1%	
在宅ワーク	項目なし	6.3%	7.2%	5.1%	
その他	5.2%	0.8%	0.7%	2.2%	

未就業者のうち「すぐにも働きたい」「3か月以内に働きたい」(早期就業を希望している)方の中で、

「5日以上」働きたいを選択した方

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
6.3%	12.9%	15.5%	22.1%	この4年で最も多く、昨年比で7ポイント増加、全体の2割超に

過去4年の未就業者の扶養に対する考えの変遷

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
絶対に扶養におさめたい	52.8%	25.5%	23.0%	24.2%	未就業者で扶養から外れたい方の割合が昨年比で約15%増加
できれば扶養内におさめたい	項目なし	49.2%	56.2%	49.0%	
できれば扶養から外れたい	24.1%	18.6%	13.7%	17.5%	
絶対に扶養から外れたい	23.2%	13.1%	7.0%	18.2%	

過去4年の未就業者の希望する働く時間

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
3時間未満	7.0%	6.2%	5.8%	2.8%
5時間未満	59.1%	64.4%	66.7%	60.0%
6-8時間	0.0%	27.4%	<b>25.5%</b>	<b>31.6%</b>
8時間以上	21.0%	1.9%	<b>2.1%</b>	<b>5.6%</b>
まだ分からない	16.3%	0.0%	0.0%	0.0%

過去4年の未就業者の希望する働く日数の変遷

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
週1-2日	11.2%	5.7%	7.3%	4.2%
週3-4日	59.7%	69.2%	67.0%	60.2%
週5日以上	27.0%	25.1%	<b>25.8%</b>	<b>35.6%</b>
不定期	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%

未就業者で6時間以上を希望する方は昨年比で約10%増加

未就業者の中で「週5日以上」の勤務を希望している方が  
昨年比で約10%増加

以上の調査結果より、昨年に比べ、未就業者の中で「雇用形態に拘わらず」「すぐにも長時間」「多日数」働きたい方が増えていると言える。また、「契約社員」「派遣社員」のニーズの高まりも見受けられ、働き方に関する意識の多様化が進んでいるとも言える。

同様に家族の扶養から外れたい人が増えていることから「働くことについて主体的に働きたい女性(ママ)が増えている」と言える。

さらに、当施設の利用者へのヒアリングでは「コロナ禍になり、仕事なくなった」「仕事が減り、ダブルワークをしたい」という理由で来店される方も少なくない。

前述の女性(ママ)の働くことに関しての意識変化もみられることから、「コロナ禍において、これまで就業していた女性(ママ)労働者は職(またはその一部)を失い、求職をしている可能性が考えられる。またこの状況を言い換えると、現在女性(ママ)の就職・転職市場が多様化・活発化傾向にあるとも言える。

今後はこの仮説を検証していくとともに、そうした求職者が就業できるような施策にも取り組んでいきたいと考えている。

#### ■ 調査実施 (本調査に関するお問い合わせ)

株式会社ワールドネクスト  
 福島県郡山市安積三丁目361番地 / 024-937-1481  
<https://wnext.co.jp/>